悪意のない悪

中　一

「年頃の女の子は本当に難しくて、よく分からない。」昨年私は母からこんな言葉を言われた。中学生になってから持つ予定だったスマートフォンを前倒しで買ってもらった。みんなより少し遅れをとっていた私はうれしくて仕方なかったのだが、夏休み前に無料通話アプリを始めたあたりから何となく雲行きがあやしくなってきた。

私は今回人権作文を書くにあたり、自分がスマートフォンを持ったことによって大きく変わった、友達に対する考え方や在り方をもう一度考えてみることにした。

スマートフォンを持った当初の約束は、「無料通話アプリは中学生になってから」ということだった。しかし、夏休みに仲のよい友達と連絡を取りたかった私は親に何とか頼みこみ、個人でつながることだけを許してもらった。最初はプールに行く約束や宿題の進み具合などの何気ない会話が中心だったが、みんなの投稿を気にするようになってから、友達に対して不信感を抱くようになった。「あれ、私だけ誘われてない。」投稿されていた写真には、何人かのクラスの女子の中にいつも一緒にいる仲のよい友達も写っていた。そんなことが何度か続き、もしかして自分だけ仲間外れにされているのではないかと不安に思うようになっていった。

結局、この出来事は私の考え過ぎということで終わったが、仲のよい友達がどうして私に声をかけてくれなかったのか。違和感が残った。

そしてもう一つ、私の悪口を無料通話アプリ上で言っている人がいる、と直接その内容を見せられたことがあった。そのときは悪口を言っていた相手に腹が立ち距離を置くようになってしまったが、後になって冷静に考えてみると、悪口を言われる自分にも原因があったような気がした。そして、悪口を言った相手を責めるのではなく、平気で悪口を告げ口した人に対して、

「それは親切心ではなく、間違ったことをしているんだ。」

とはっきり伝えておけばよかったと思った。

私はこの二つの出来事から、「悪意のない悪」は

日常生活の中に当たり前のように存在すると思うようになった。私自身、何気ない言葉や行動で知らないうちに相手に不信感を抱かせて、傷つけてしまっていることがきっとある。前に見たテレビで、「『知って作る悪』と『知らずに作る悪』とでは、『知らずに作る悪』の方がより恐ろしい。」と言っていたのを覚えている。きっかけはスマートフォンを持ったことにすぎなかったが、去年の私は、「悪意のない悪」によって「友達って何だろう。」「本当の友達ってできるのかな。」ととても不安になってたくさん泣いたり悩んだりした。

このような経験から中学生になった私が今できること。それは、何がいいことで、何が悪いことかをしっかり見極めることのできる目をもつことだと思う。何が悪いことなのかが分からなければ、気を付けることすらできない。これからは、「悪意のない悪」で人を傷つけて、悲しい思いをさせないように、日頃から意識して生活していきたい。そしてこのようなことで傷ついている人がいたら、手を差し伸べて助けることができる優しい人になろうと思う。